

令和4年度第4回代表幹事会議事録

【日 時】 令和5年(2023年)3月5日(土) 13:00 ~ 15:00

【場 所】 Zoom 会議

【出席者】 役員：久保田会長、三澤幹事長兼副会長、山岸副会長、小松副会長、太田副会長、衣袋副会長、
百瀬副会長

代表幹事：森本総会指導委員長、戸田広報委員長、濱田 HP 管理委員長、二木6年委員会委員長、
佐藤事務局次長、小岩井第56回実行委員長

【欠席者】 脇川財政委員長、松沢代表幹事、清水会計委員長、松澤事務局長

計 13 名参加

議事進行：運営細則第5条総務委員会第1項に基づき、百瀬総務委員長兼幹事長補佐が第一回代表幹事会議題にそって議事進行を行った。

1. 開会あいさつ：三澤幹事長

- ・ このところ頻繁に会議が続いていますので大変かと思いますが宜しくお願いします。

2. 久保田会長の挨拶

- ・ 皆さん今日はお集まり頂きありがとうございました。
- ・ 会議の回数が多いので、皆さんお忙しい中、日曜日にご参加頂きありがとうございます。
- ・ 議題は盛りだくさんですが、今日は宜しくお願い致します。

3. 東京同窓会の存在意義について

(1) 二木委員より、前回代表幹事会の議事録の内容を報告

P5 参照 黄色：理念、緑色：具体的なアクション、赤色：課題懸念

P6 参照 整理結果サマリ

- ・ 理念については大差ない
- ・ 課題・懸念について 多岐にわたっている
 - 若手が集まらない：若手とはどの世代、若手が集まれるきっかけは、組織として思いをどう伝えるか
 - 時代が変わっている中で、どう変わったら良いか分からない、今までのやり方では振り向いてもらえない
 - 若年層の巻き込みに課題がある

(2) 課題・懸念について参加者全員で議論

- ・ 幹事会・同好会の後継者の発掘と育成が急務（脇川委員長・戸田委員長の意見を紹介）
- ・ 若い人の組織を作る必要がある（中野参与の意見を紹介）
- ・ (二木)若手の意見：若い世代に参加しないかと言った時に、何ででるのか、出る意味は何かと返される。

同期・サークルでは集まっている（高4 5回では100人集まった）東京同総会に魅力がない。松本では縣陵のコミュニティがあり、何かあった時に気軽に相談できる。キッセイ薬品にはコミュニティがある。他の企業にはない。参加する意義を明確化する必要がある。

- ・（久保田）若いうちは仲間だけで集まればよく、それが楽しい。歳を取ると色んなところで色んな人に助けられている。それは同期ではない。色んな人と関わっていく事は宝物になる。東京同窓会はこういう理念でやっているという宣伝が必要。色んな場面で色んな人に助けてもらったりヒントを貰える「受け皿」となるのが同窓会。
- ・（二木）35歳を過ぎたら見方が変わった。コミュニケーションを広げたい時に高校同窓会が選択肢になっていない。SNSを通じて、朝会・異業種交流会などには参加している。これに並ぶ選択肢になりえるかどうかは課題。マンションの理事長をしているが横のコミュニケーションがない。積極的にコミュニケーションを取る人がいない。
- ・（小松）長老から若い人までいる中で、若い人が活動の主体になるように巻き込み譲って行けると良いのではないかと。無理やりではなく、出来るだけ楽しいイメージを作って若い人を巻き込み、その中で小さな責任を与えていけると良い。
- ・（三澤）実行委員会の方々（高4 5回）は4 8歳で中堅どころ、卒業直後の20代から40代が若手、同窓会を継続していく共通の考えを持って、若手・中堅の皆さんが同窓会運営に携わる代表幹事（各委員会委員長）になってもらい、自ら斬新な具体的企画をたて責任もってやって頂く。（他人依存ではなく、自らが積極的に取り組む。）

同窓会を若手に繋げる活動の一つが卒業30年後の母校愛のリレー。（東京同窓会総会懇親会実行委員も母校愛のリレーの東京在住同期が当番）東京同窓会の理念を伝えて行きたい。若手を集めるにはどうしたら良いかの一案が28年前に発足した5年委員会（現在の6年委員会）時代が変わっても課題は同じ。6年委員会で何をやるかは、委員長のアイデアで自由に行って良い。異業種交流会やビジネス交流会をやって続かなかった経過がある。私も以前高13回の先輩と不動産ビジネスで会ったが、その時縣陵の先輩と知っていれば、別の展開ができたという反省がある。若手を引っ張りこむというより、若手に積極的に同窓会に参加して欲しい。最初から仕事ありきは上手くいかない。同窓会で先輩、後輩、同期と付き合うことで結果的に仕事に役立てれば良い。世の中に2（前向き）：6（普通）：2（後向き）の法則がある。同窓会でもみんなが協力してくれるわけではない。10人に声を掛けたら前向きの1人～2人に同窓会活動の中心になってもらい同窓会を継続していくことが必用と思う。

- ・（百瀬）先日、幹事の一人から連絡も頂いたが、その方のご主人（縣陵出身）やお子様は同窓会活動には全く興味がないとの事でした。皆さんの意識している若手は幾つくらいか。20代～40代は幅が広すぎ、ターゲットは明確にならない。高校以外に大学の同窓会もあるので、その中で高校の同窓会をどう位置付けるかを明確にする必要がある。役員の後任を探したいのなら40代がターゲットとなる。また、高4 6回と高4 8回以降は学年幹事もいない状況です。
- ・（久保田）世の中全体が「若手がない」と言っている。一步は言ってもらえると楽しいと言ってくれる人はいるので、その一步をどう踏み出してくれるかがポイント。HPに色々な情報を入れて行きたい。
- ・（二木）2：6：2の法則について、今年の松本の同期会（昨年10月）では、1：4：10だった。同期は450人いるが、100人位しか集まらなかった。コロナ禍の影響はある。入るきっかけについて、同期や近い世代の入りは壁が低い、また、ゼミの繋がりも一緒の世代がいて入りやすい。若手を集めるには、戦略的に近い世代から広げていくアプローチが必要ではないか。青年部を作り広げていったらどうか。

- ・ (衣袋)きっかけが大事。あがたの広報を見て、同期同士で、行ってみようかなと思えるようなものがあると良い。各学年でコアになる人物を見つけて、その人から同期に働きかけてもらう方法はどうか。
- ・ (山岸)在校中の活動状況で深いコミュニケーションがあると、参加するしないの大きな要素になっているようだ。各学年のコアになる人を見つけて、その方をフォローして若いうちから同窓会に誘い込んで行くことが重要だと思う。
- ・ (戸田)私も同窓会に関わったのは卒業後30年の実行委員会の時からです。それ以前は全く機会もなく同窓会も知らなかった。卒後30年、48歳の時に集まるが、総会・懇親会が終わると散り散りになってしまう。私の同期は、実行委員会をやった後に仲良く付き合っている。ここから先をどうするかがポイント、この時にメンバーを繋ぎとめておけるかが大事だと思う。
- ・ (太田)戸田さんと同じ思い。30年の集まりまで同窓会の存在を知らなかったが、その後、同期で集まるようになった。若いうちには参加をしなくても、年齢を重ねると、こういう集りの良さが分かる。卒後30年の総会・懇親会の努力を手厚く応援して行ける組織になると良い。緩やかな集まりで良いので、思った時にいつでも受け入れてくれる心温まる組織で有れば良いと思う。価値観は様々なので、余りぎっちり決めて行くと足が遠のくような気がする。若い人と言っても卒後30年をスタートと考え、関心を持ってもらうのが良い。友人に同窓会の話をするとうるさく驚かれる。素晴らしい集まりだと思う。
- ・ (森本)私としては、若手は高47回から下の世代。高47回から下は、実行委員会も回期幹事も難しくなってくると思う。高47回から下の20年は参加する人がいない。その年代に掛かっている。若い人は東京同窓会を身近に考えていないので、参加しないのもしょうがない。我々が何を用意できるか、キーワードは親睦。年一回の総会・懇親会、レディースの会、会報あがた、といった水がある。美味しい水の質を上げることが必要で、年一回の決まったイベントだけでなく、「常に何かが起きている」同窓会でありたい。また、良い水に連れて行くためには広報活動が重要。会社では新入社員が入ると教育係がいる。少し上の世代が下の世代(同じ中学・同じ部活など)をケアして良い水に連れて行くことが大事。HPは見てくれない。何故、見てくれないかを考えないといけない。HPでこんなことが出来る、会費が払えるなど、HPを見てもらえるようにしていかなければならない。今後、キーに成るのは6年委員会、層が若くて厚くアクティブ。ここを厚くして、高63回生を入れたりすることが必要。美味しい水を作る事、そこに連れていく事が必要と考える。
- ・ (小岩井)存在をしっかりと知ってもらい、集まる機会を制的に作る必要がある。高校を卒業する時に、30年後に集まる仕組みを作れると良い。タイムカプセルなど、縣陵じたいを力強くするために、あれがあるから集まろうぜというものを作っていくことで、切っ掛けづくりになる。同窓会で楽しめるのは幹事をやる40代が良く、同期の前後5年くらいでコミュニケーションを取って幅を厚くしていくことが大事。ここ10年くらい同窓会に関わって、幹事をやってきた年代の先輩達が、この幹事会に殆ど出て来られないのは寂しいし残念。ここは変えていかなければいけない。今年の実行委員会をやるが、役割を重たくなりすぎないように工夫をしていきたい。東京同窓会の幹事になっても、やることは決まっているし気軽に来てね、役員になってもそんなに大変ではないよ、楽しいよとなる作り込みが必要と思う。
- ・ (佐藤)名簿を見ている立場から言うと、この先、人数がほとんどいない。実行委員会のメンバーね去年は2人だった。今回もそれほど多くない。高30回の時は、東京に70人位いて、その内の50人位が実行委員として活動していた。この先、10人以下の人にやらせるのは難しい。東京に出て来ている人も少なくなっている。或る程度のところで、東京同窓会を止めるのも一つの選

択肢となる。

- ・ (三澤) 5年委員会発足時先を読めたのは高2 5回迄。その意味では、28年前と変わっていない。実行委員が一人でも良いので継続してほしい。人数に応じたサポートを東京同窓会で行っていくことが大事。濱田さんが声を掛けてくれて高7 3回の期の10人位が集まってくれた。卒業したところからフォローしていく事も大事。6年委員会も卒業後の若手をどう取り込んでいくか、濱田さんも入れて考えて行ったらどうか。

➡ 次回は、今回の課題を整理して具体的なアクション案について議論する

- ・ 若手と言っても、一番のターゲットは卒業後30年の世代、ここをどう開拓していくか
- ・ 卒後30年後のイベントにどうやって集めるか、そしてどうやって維持していくか
- ・ 集り・維持していくためのネタをどう仕込んでいくか
- ・ 若手を集める為のアクション検討の参考

高尾山ハイキング、山メシ、首都圏近郊日帰りハイキング、燕登山、上高地日帰り旅行等
フェイスブック：我ら縣陵同窓会、松本県ヶ丘高校の友達、覇権会（バレー部）などあり
松本山雅の応援会、東虹会での親子絵画教室・陶芸教室など

- ・ HPに掲載する情報の内容など

(3) 第56回総会・懇親会準備状況について

① 資料『第56回東京同窓会総会・懇親会』準備状況のご報告に基づき小岩井実行委員長が報告

② 予算案について、資料『第56回懇親会予算案』に基づき二木副実行委員長から報告

(参加者数140人、230人、280人の3パターンあり)

- ・ 来賓の車代の予算計上についてどこまで出していたか
 - 校長先生他先生方（遠隔地からの出席者）には、特急あずさの往復代を支払った。関西縣陵会・僚友校には出していない。
 - 来賓のお車代の予算は減らすことが可能
- ・ 料理の出し方はどうなるのか、大皿か
 - 料理の出し方は「大皿」だが、テーブルの人数分しか出ない。
- ・ 来賓の出席動静については、早めにお知らせ頂きたい。
- ・ 開催を中止する場合の会場のキャンセルは3月11日以降に発生する。
- ・ 実行委員会の交通費・引継会等の必要経費は計上して頂きたい。
- ・ 本部繰越金は、トントンで良い。万が一、赤字が発生した場合は同窓会で負担する。
- ・ 予算案は3案の内、どの案で行くかを決めて、3月26日の合同幹事会に提出する。
- ・ 当日に急に来た方には参加をお断りするのか。
 - 精々2人程度なので参加を認める。同じテーブルになった人の料理・飲み物は減る。
- ・ 参加者の事前ヒヤリングでは30人程度から参加意思ありと返事を頂いたが、時期も早く、あまり参考にはなっていない。

※ 審議の上、本日の議論を踏まえて予算案を作成し、次の合同幹事会で発表することとした。

その他は、会議資料に基づき準備を進めることとした。

(4) 会報あがたの発行準備の進捗状況について

- ・ 返信ハガキの内容案について、森本総会指導委員長より説明

- ・ 改正個人情報保護法により、情報漏洩した際の罰則が厳しくなっているので、取扱いには十分注意する。

※ 審議の上、賛成多数により報告の内容で進めていく事とした。

(5) 100周年記念事業の進捗状況について

- ・ 太田委員長が、資料「縣陵 100 周年東京同窓会記念事業祝賀会の準備状況について」説明
- ・ 俳句だと季語が入るので川柳にしたらどうか
 - 選者を依頼している宮坂先生は俳句が専門だということで俳句に絞ることとした。

※ 審議の上、賛成多数により報告の内容で進めていく事とした。

(6) 同窓連関連について（山岸副会長より）

- ・ 東京同総連は7月に総会を予定している。
- ・ 中信同窓連は5月に総会を予定している。また、10月に旅行会を予定している。
- ・ 中心同窓連のゴルフ会を3月16（木）日に予定している。

4. 閉会挨拶（三澤幹事長）

- ・ コロナも落ち着いてきたので、5月の合同幹事会を喜山クラブで開催する方向で検討する。
- ・ 何曜日の何時位が良いかを改めてヒヤリングする。
(実行委員会のメンバーは隙間時間を使って参加しているので Zoom 方式が有難い)

15時に前審議を終了した。

3月26日（日）10時より合同幹事会を予定している。

以 上